國學院大學学術情報リポジトリ

〔報告3〕子ども支援学科FD：令和元年度 國學院大學人間開発学会第十一回大会 シンポジウム報告：「人間開発」の再検討：その原点と将来を見据えて

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2023-02-06
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 山瀬, 範子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001407

〔報告三〕

子ども支援学科ＦＤ

國學院大學人間開発学部子ども支援学科准教授　山瀬　範子

本学着任順で異なる子ども支援学科教員の視点

私からは、子ども支援学科のＦＤの状況について報告をさせていただきます。今日の報告は、子ども支援学科の先生方のアンケートについての概要を御紹介させていただいた上で、今、子ども支援学科でＦＤとして取り組んでいる「人間開発」理念に基づいた学科の特色づくりに係わる話し合いの様子について少し御紹介をさせていただき、今後の取り組みについて、こんな形で考えていますというところを御報告したいと思います。

最初に、子ども支援学科の教員から提出されたアンケートの概要ですが、先生方からのアンケートデータをいただき、全部読んでいきますと、前提となる人間開発学部や子ども支援学科設置時の理念などの同じ資料を読んで考えているはずなのですが、内容がそれぞれ違っていて面白いのです。これを、國學院歴、つまりは「学校法人國學院大學」に勤務した年数の長い順、着任順で並べて考えてみました。

新任の先生、設置から関わっている先生、それ以前の学部設置や学科準備の段階から関わっている先生の三つのグループに分けて見たときに、新任の先生は、第一回ＦＤ協議会時に藤田大誠教授から配布された資料（「國學院大學の建学の精神「神道精神」と「人間開発」」、「人間開発学部　設置の趣旨等を記載した書類」や「子ども支援学科　設置の趣旨等を記載した書類」の理念部分）をすごく丁寧に読んでまとめて下さっています。建学の精神とか学部、学科の理念に対する理解を深めようとする中での難しさなどが率直に出てきたりしています。

私を含め子ども支援学科設置からいるメンバーは、学科設置の最初のところで、みんなでたくさん話を、いろんなことを繰り返したのですが、その話し合ってきたことなどをもとに振り返っているという視点です。設置段階の学生の様子だとか、学科の姿をもとにしながら、今までの経過も踏まえつつ、実態に合わせて変えていくというような姿が見られるかと思います。

それよりも前、学部設置段階からいらっしゃる先生、或いは学科設置準備をして下さった先生方は、学部や学科設置申請の際の経緯だとか、本学部設置から八年間学部長を務められた新富康央國學院大學名誉教授の言葉をもとに原点を問い直すことで振り返っていくような視点というのが見られました。

授業の見直しを図る

現実的な課題が山積する子ども支援学科では、学科連絡会においてあまりＦＤの議論に時間をかけられてはいなかったのですが、現在の学生たちに対してどんな関わり方がよいのかということを話す中で、お互いの教育観だとか学生観だとか、あとは共通しているところなのですが、学びの質を保証するために私たちができることは何かというところを話してきました。

人間開発学部や子ども支援学科の設置の理念だとか本学の建学の精神というのは、さきほど申し上げた同じ資料を読んで理解を深めたり、改めて振り返ったりしたのですが、理解の方法が実にさまざまで、そうすると、子ども支援学科設置のときもそうでしたが、理解の仕方がさまざまだからこそ、それぞれの良さがあるわけで、その良さを生かしていくためには、実体化していくためにしっかり話したり、理念を共有しながら、それを実践につないでいくための、実体化していくための方法が必要なのではないかということが、みんなで共有するに至った観点です。実体化するということは何なのかというと結局、私たちが考えねばならないのは授業実践ではないか。授業の在り方について考えていきたいと。そこで、子ども支援学科では今、学部の理念に照らし合わせながら、それぞれ自分が担当している授業の見直しを図るということを考えています。

幼稚園教諭と保育士の養成課程という二つの「縛り」

さきほど渡邉雅俊教授の御報告の中に、教員免許の課程がある中の「縛り」と仰っていましたが、私たちの場合は「縛り」が二つあります。幼稚園教諭の教員免許課程と保育士の課程、この二つを持っています。

幼稚園教諭課程に係わるところとしていわゆる教職に関する科目と、それに加えて保育士資格に係わる養成科目というものが重なってきます。免許資格を取るということを考えると、かなり単位数が多くなってくるし、また、保育士資格に関しては、開講の方法だとか教授内容に関しても、かなり明確なルールというのが課せられています。それゆえ、保育者養成課程、幼稚園教諭とか保育士の免許を出している大学、短期大学、専門学校はたくさんあるのですが、概してこれらの単位数がかなり多く、しかも、教育免許状の「縛り」よりも保育士課程の「縛り」の方がかなり強いものがあり、科目数も多いので、独自カラーを持ちにくいというのが全般的な傾向としてあります。

例えば、保育士養成課程の科目一覧を見ますと、全部の科目に関して、科目名称、授業形態、つまり講義でやるのか演習でやるのかなど、しっかり決められていて、単位数もかなり厳格に決められています。必修科目に関しては、一定数を超えてしまうこともできません。

教授内容の一例を挙げますと、私が担当している「子ども家

庭支援論」は今、一年生から履修する科目ですが、新カリキュラムでは目標が五つ定められています。

要するに、教授内容としてはこういうことをしなさいということが規定されているのです。この科目は、「教育原理」などと同じく保育士養成課程における「必修科目」の「保育の本質・目的に関する科目」なのですが、十五回の教授内容は細かく提示されており、これに基づいて授業を実施し、学生が修得していることをもとに資格が付与されるという仕組みです。現行では保育士資格は、厚生労働省が直轄する科目の中で唯一、国家試験を伴わないもので、養成校での単位取得によって国家資格が得られるという仕組みになっているので、そうである以上、養成校で何を学ぶか、その単位の取り方というのは、かなり「縛られ」ています。

そうすると、本学だけではなくて、保育士課程と幼稚園教諭免許の課題を持つ他の大学が作成しているカリキュラムツリーを見ても、基本的には、本学がやっている科目名称とあまり変わりません。また、ある大学では特別支援教諭の免許も出しているので、そこでは科目名称上、ほぼ免許資格の科目しか見られない、入っていないという形になっています。

ただ、それではどの学校もみな一緒のカリキュラムになってしまうではないか、と思われるかもしれませんが、やはり免許資格の科目しか開講しないというやり方は、われわれにはできないと思うのです。受験生やその保護者、学生から求められているのは学部・学科の独自性でしょうし、たくさんある養成課程の中において、國學院大學人間開発学部子ども支援学科としての特徴は何か、ということが必要になってきます。

子ども支援学科で養成する人間像の特徴

人間開発学部子ども支援学科としての特徴は何か、ということを打ち出すにあたって、授業名称で答える、科目で答えるというのはなかなか難しいところです。教授内容の中で「縛り」は決まっているのですが、その中で本学科の特徴をはっきり打ち出していくとすれば、建学の精神や理念、学部理念、学科理念に基づいてカリキュラムをどう構成し、具体的に私たち一人一人が何を教えていくのか、教授内容の特色をどのようにつくっていくのか、これをしっかり私たち子ども支援学科の教員間で考え、実際の授業の中につないでいくということが、社会に対して、子ども支援学科が魅力ある学びの場としてあり続けるために必要なことではないかと思います。

そこで私たちは、子ども支援学科の特色とは何かということを、人間開発学部の理念や子ども支援学科の理念などをもとにして話し合って考えました。

そうすると、子ども支援学科で養成する人間像の特色としては、まず、「日本の伝統文化を理解している」、「自然に対して畏敬の念を持ち、人や動植物の生命を大切にできる心を持っている」、「自立した生活習慣を身に付け、社会の一員として他者と共存して生活できる力を持っている」、「さまざまな現代的課題を理解し、その解決に向けて努力できる意欲を持っている」などの点が挙げられました。

これらを踏まえた、つまりこれらの資質能力を身に付けた保育者養成としては、「子どものやる気や頑張る気持ちを引き出

し応援できるなど、子どもの心身の発達・発育を理解し、子ども一人一人に応じた教育や支援ができる」、「保護者や家庭に対し、子育てに関する助言、支援ができる」、「幼児教育・保育を取り巻く、さまざまな現代的課題（待機児童問題、保育所・保育士不足、子どもの貧困等）の解決に向けて努力できる」、こういう姿が思い浮かぶのではないかと考えられます。

「人間開発」理念に照らした授業実践

それを実践や実際の授業に置き換えたときに、例えば、本年度よりスタートした必修科目の「野外活動実習」（開講学年一年生）では、事前・事後指導を通して、幼児教育・保育として行われる自然体験、外遊びなどについて学びを深めることで保育者に求める資質と能力の育成を図る、一泊二日の共同生活やさまざまな体験活動を通して新入生の交流を図ることで仲間としての絆を深めています。

このように、「人間開発」の理念を授業の目標と照らし合わせる中で、実習で行うさまざまな自然体験や外遊びを通して、自然に対する畏敬の念や、人や動植物の命を大切にできる心の育成、仲間との集団宿泊活動による自立した生活習慣や、他者と共存して生活できる力の育成を通して、学部の設置理念にある「人間開発」に寄与しているのではないかと考えています。

また、これは保育士養成課程の科目なのですが、「保育表現技術（身体表現）」（開講学年三年生）では、さまざまな身体表現を体験することを通して、子どもの表現の仕方や習得の方法、表現の広がりを理解するとともに、体を動かすことや身体で表現することの楽しさや大切さを学ぶことを目的の一つとしています。この授業を通して、身体表現を体験するだけではなく、身体表現を伴った遊びをグループで創作、発表、指導する機会を設けるとともに、与えられた課題に対し、自ら動き、考え、解決する経験を重ねることで、実際の保育の場面でも役立つ表現力をつけてもらうことをねらいとしています。

学部の理念に照らし合わせると、「人間開発」のねらいの一つである、さまざまな現代的課題を理解し、その解決に向けて努力できる意欲の育成に寄与するだけでなく、子どものやる気や頑張る気持ちを引き出す身体表現の指導ができるようになることで、人間開発のねらいに挙げた資質、能力を身に付けた保育者の養成に貢献することができるのではないかと考えられます。身体表現も「縛り」の中ではあるものの、「人間開発」の理念に照らし合わせる中で、子ども支援学科としての特色というものに取り組んでいくことにもなろうかと思います。

さらに、私の担当科目の中で多分、人間開発学部の三学科が共通してイメージし易いところでは、一年生前期開講の「教育の原理」があります。もちろんこの科目も、その教授内容の中身としては、細かく決められているのですが、教育の思想とか歴史の中でも、日本の教育というところをしっかりベースにして教えていくだとか、子ども、教育観の変遷などの扱い方の中で、「人間開発」の理念というのが反映できるのではないかと思ったりしています。

それから、大学施設を活用できるような指導というのも考えております。子ども支援学科のある先生は、渋谷キャンパスの國學院大學博物館に学生たちを連れていったことがあるそうで

す。一年生のときと四年生のときに同じ学生を連れていったのですが、子ども支援学科で学び、四年経ったときに、改めて博物館の展示を見ることで、学生たちにとって私たちの生活と文化の中で自分たちが学んでいるということをすごく実感できていたので、そういう施設を上手に、「人間開発」の理念に基づいて活用できるような授業展開というのも考えられたらと思っています。

このように、理念をもとに授業を見直すということを通して、子ども支援学科では魅力あるカリキュラムの提供や、学科の特色のある授業の運営ができるように話し合っていきたいと考えています。その上で、この魅力あるカリキュラムというのを、どういうふうに発信できるのか、構成できるのかということについても、今後は検討を進めていきたいと思います。